

平成4年度 自己評価書

学校園名 東京学芸大学附属高等学校

1 学校経営計画
別紙のとおり。

2 自己評価

領域	重点目標・具体的取組	達成状況・成果と課題	評価	今後の改善方策	学校関係者評価を踏まえた今後の改善方策
(1) 学校運営	<p>新型コロナウイルス感染症への対応 ○(1A) 危機的状況下に対応したICTを活用した学習環境の構築：「ICTやネット環境を十二分に活用したオンライン授業の経験を生かして、新たな感染症や災害に対応した対面とオンラインでのハイブリッドな学習環境を構築する。」</p>	<p>(1A) 今年度から校務支援システムBLENDを導入した。生徒・保護者や教員への連絡が容易に行えるようになった。また、生徒の出欠管理や成績の公開などもオンラインで可能になった。</p> <p>(1A) 69期生にもMacbook Airによる1to1を実施し、全校生徒がデバイスを持っている状況となった。故障時の対応について校内・校外との調整・整備した。生徒に対して機器管理の指導を徹底した。保護者会などでも1to1の現状を保護者の方にも説明することに加え、69期では保険に関する動画も作成して、配信した。また、保護者を対象としてアンケートを始めて実施し、1to1に対する考えを集約することができた。67期生のPC返却者については1月に回収し、手続きを進めている。</p> <p>(1A) SINET6への切り替え工事、スイッチの更新など、ネットワークの懸案部分の工事を行うことができた。その過程で大学との連携も取ることができた。</p> <p>(1A) 教室用ICTの更新として75型ディスプレイを設置した。また、5つの特別教室については大学の資金を利用して、ICT機器の更新を行った。あわせて、泰山会にお願ひし、今後のICT機器の更新計画を立案した。</p> <p>(1A) 教員アンケートなどの結果などを踏まえると、3年生での1to1の活用、「情報モラル・情報セキュリティ」に関しての指導など、具体的な課題も見えてきた。</p>	<p>A (1A)A</p>	<p>(1A) 対面とオンラインでのハイブリッドな学習環境には十分対応することができたが、自己都合による欠席などでもオンライン授業の要望が生徒・保護者からあった。今後対応を検討する必要がある。</p> <p>(1A) 校務支援システムBLENDを導入した継続的に業者に改善を要求することが必要である。</p> <p>(1A) 講堂のプロジェクター、教員用デバイスのリース開始、再来年度は残った特別教室のICT機器の更新を計画。</p> <p>(1A) 故障時の対応について、情報や費用（立替金）のフローは調整できたが、修理が遅延し、大変対応に困った。保護者対応に関しては、これまでよりも保険などについて理解を得られたと思うが、修理に関わる場面では慎重な対応が求められる。</p> <p>(1A) 修理対応など取り扱い業者が対応に時間を要し、速やかな対応ができていないケースがあった。業者の選定の見直しを含めて検討する必要がある。</p> <p>(1A) 修理に関するフローが速やかに進むように業者との連携が必須である。Apple Careなどを活用するなど検討すべきである。また、修理のフローが簡便になるような新たな契約を検討することも重要である。保護者アンケートや保護者</p>	<p>(1A) 危機的状況下に対応したICTを活用した学習環境の構築に関しては、学校関係者からは柔軟な対応がなされ、ICT機器の導入も随時導入することで学習環境が整えられていることを高く評価されている。ポスト・コロナ期においては、新型コロナウイルス感染者に対する対応から、自己都合による長期欠席者における対応、障がいを持つ生徒に対する合理的配慮に伴う対応へとシフトしていくことが予想される。この3年間に蓄積した技術や対応法を新たな生徒対応に応用できるように応用していくことが肝要である。</p>

	<p>○(1B) 学校行事における対応：「行事や部活動の制限下での生徒の心身の健康状況に配慮し、生命・健康を重視した上での可能な活動を工夫する。」</p>	<p>(1A) ネットワーク環境整備工事を実施し、ネットワーク環境は改善したものの、未だに接続が悪い部分も見られ、その部分の改善には取り組まなければならない。また、時々スイッチの不調も見られた。</p> <p>(1B) 体育祭、辛夷祭などとは、コロナ対策に留意しつつ、実施することができた。部活動にも関わらず、監督の顧問負担が生じたが、OB・OGの参加、一部の部活動の合宿が実施できた。・学年、生徒指導部、いじめ対策防止委員会が情報共有につとめ、初動から適切に対応することができた。</p> <p>(1B) 第 69 回入学式を 4 月 6 日(水)、第 67 回卒業式を 3 月 1 日(水)に講堂で実施(仮)。コロナ禍のため、在校生の祝歌合唱等は実施しなかったが、入学生・卒業生1名につき1名の保護者 列席を認めて実施できた。</p> <p>(1B) 遠足・林間学校については、実施時点における新型コロナウイルス感染症の状況に配慮して実施形態を工夫し実施した。林間学校については寮委員会との連携を強めた。球技大会は基本的な感染対策を維持しつつコロナ禍前に近い内容で実施することができた。一方、スキー学校については参加希望者が少なかったことから中止を余儀なくされた。学習旅行については、69期までは感染症対策を優先する方向で、68期の形をもとに準備を立ち上げた。</p> <p>(1B) 宿泊行事については、コロナ禍による空白もあり、実施・運営に多くの課題が残った。</p> <p>(1B) 林間学校は、2泊 3 日で実施。一部屋の最大人数を 4名とし、十分な感染症対策を行いながら1クラスごとに妙高寮に宿泊した。二日目には目的地を黒沢池入口として山行をして、キャンプファイアーも行った。</p>	<p>への丁寧な説明は引き続き、継続する。</p> <p>(1A) 情報活用能力・ICT活用能力の育成のためのカリキュラム・マネジメントを進め、1to1が学校のカリキュラムの一部になるよう、学校全体での取り組みが必要である。</p> <p>(1B) 林間学校・スキー学校の今後のあり方については学校レベルでの検討が必要だと考えられる。学習旅行を含めてどの学年も実施する宿泊行事については、学校全体で行事の大枠を共通化する方向で全校的な対応が必要だと考えられる。</p> <p>(69)</p>	<p>(1B) この3年間で、伝統的な行事のノウハウがかなり失われてしまったことが指摘されている。行事の廃止や縮小が学校の衰退につながることを鑑みて、特別委員会を編成して学校行事についての検討が必要であると考え。その際、単に休止・廃止した行事を元に戻すことだけを考えるのではなく、リニューアルや内容の精選・精査も視野に入れた検討をすることが求められる。</p>
--	---	---	--	--

<p>広報活動の活性化</p> <p>◎(1C) 広報活動の充実：「新しいホームページを生かし、各種情報を広く迅速に伝える。校長ブログは月に1回以上更新し、本校の進んでいく方向を明確に示す。各種行事や部活動の状況、進学実績等は、即時掲載し、平均して週に2回以上更新する。生徒の声、保護者の声、学校外からの反応等の掲載も考える。」</p> <p>◎ (1D) 学校公開：「新型コロナウイルス感染症の状況が許せば、在校生の保護者向け授業公開を1週間、その他中学生とその保護者等への授業公開を2日間行う。本校での学校説明会、塾等に赴いての学校説明会など年に20回以上行う。対面での実施が不可能なら、オンライン配信等を工夫する。」</p> <p>働き方改革の視点での業務改善</p> <p>○(1E) 会議の量的軽減：「緊急事態宣言下で対面での会議を自粛した経験を活かす。企画会議や主任会を活用して調整を十分に行うとともに、会議目的の明確化とICTの活用で進行を効率的に行う。その結果として、対面での職員会議をはじめ諸会議の回数減少と時間短縮を図る。一方、オンラインを活用した情報交換（オンデマンド職員会議）は、毎週行う」</p>	<p>(1C) 昨年度更新を停止していた近況報告を再開した。企画会議からの要請を受けて各分掌等から依頼があった Web ページの更新を行った。</p> <p>(1C) 学校運営組織など、附属学校運営部からWebページに掲載が求められている校則・学校運営組織図などを掲載。</p> <p>(1C) 学校行事・学校説明会などは、対面式であってもオンライン配信を行い、遠隔地からでも視聴できるようにした。</p> <p>(1D) (1)夏の学校説明会:8月8日(月)3年ぶりの対面実施となった。コロナ禍のため、事前申し込み・各回の人数を制限し、無事終えることができた。(来校者 1,141名) (2)学校説明会:10月1日(土), 2日(日)夏同様の制限の元、各教科の校内展示も実施することができた。(来校者 1,697名) (3)保護者向け授業公開は中止した。(4)外部向け授業公開は中止した。</p> <p>(1D) 「授業実践研究会【1to1・教育工学】」を平日に本校保護者も対象として実施し、有意義な情報発信ができた。</p> <p>(1E) 学年会の時間短縮に努め、勤務時間外に及ぶ会議は原則として実施しない(69)</p> <p>(1E) 学年会議の時間短縮のため、ネット環境を活用し事前に書面共有を行う。(68)</p> <p>(1E) 会議の効率化は重要ではあるが、企画・立案の要素が強い案件を扱う一定以上の時間を要する会議の設定が難しい状況もあり、情報共有や意思疎通が十分できなかった場面もあった。(69)</p> <p>(1E) 教員を対象としたアンケート(本校での部活動のあり方、地域移行に関して)を実施し、検討した。外部指導員の人材紹介を行なっている企業と打ち合わせをした。</p>	<p>(1C)A</p> <p>(1D)C</p> <p>(1E)ã</p>	<p>(1C) Webページ更新担当者が2名であるため負担が大きい、人員配置を検討する必要がある。</p> <p>学校説明会やミニパンフレットの作成は教員個人の力量に依存するところが大きい、組織的に対応できるように改善する必要がある。</p> <p>(1E) 学芸ポータルシステムの更新にともないセキュリティに配慮したファイルの共有が学芸ポータルメッセージでできなくなった。会議の資料のセキュリティレベルに応じてファイル共有するシステムを検討する必要がある。</p>	<p>(1C) 広報活動を外部から見ている学校関係者からは積極的な発信と捉えられており、大きな問題はないように評価されている。一方で広報活動には特殊な技術が必要であることから誰でもできることではなく、一部の教員に負担を強いることになっていることも事実である。学校関係者からの評価とは別に、学校として広報のあり方について常に見直しを諮り、働き方改革に逆行することなく、最大限の広報効果が得られる方策を考えることが必要である。</p> <p>(1D) 授業公開の再開に際しては、学校評価員や学校評議員にも参加してもらい実際の授業を参観した上での評価を検討して欲しいという意見があった。令和5年度は授業公開の再開が最大の課題となると考えるが、新たな展開として授業評価の方法の検討も含めて、授業公開のあり方を検討する契機としたい。</p> <p>(1E) 会議の量的軽減については、ICTを効果的に活用した効率的な方法が評価されている。次年度は感染対策を施した対面会議の開催も視野に入れつつ、3年間で蓄積したICT活用を活かした会議の量的軽減は維持をして、働き方改革を進めていく方策としたい。</p>
--	--	--	---	--

		(1E)職員会議は、週1回(毎週木曜)のオンライン資料共有会議にて情報伝達を行い、対面もしくはオンタイムで行う職員会議(月1回)の実施時間を短縮させた。			
(2) 教育活動	<p>本物教育の進化と進路支援の充実</p> <p>◎(2A) 本物教育を強化した探究活動の充実：「従来の本物教育を強化しキーコンピテンシーを意識した探究活動等により「課題発見能力」「思考力」「判断力」「表現力」を育成する。特に東京学芸大学からの支援を活用し、専門性の高い探究活動を目指す。」(研究部)</p> <p>○(2B) 本物教育を深化させた教科教育の充実：「新学習指導要領と令和の日本型学校教育の目指す方向に沿った、現代的で充実した教科指導を実現することにより本物教育を深化させたカリキュラムを開発する。(カリキュラム委員会+教務部+研究部)」</p>	<p>(2A) 「SSH探究基礎」では大きく内容を改良し、様々な取り組みをすることができた。探究講座の新設はもちろんのこと、定期試験の実施など、新しい試みを実践することができた。(研究部)</p> <p>(2A) 「SSH探究」ではグループ構成(理数/社会課題)を一新した。次年度に向けての教員研修を3回計画し、実施した</p> <p>(2B) 「発展SSH探究」では4月のScience Fairを活用し、成果を発表する機会を設けた。(研究)</p> <p>(2B) 理科を中心に探究的なカリキュラムの開発を試みた。学校設定科目として探究活動と連動したカリキュラムづくりの検討を始めていきたい。附属中学校との連携も進んでいない。(研究)</p> <p>(2B) (特別授業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に「無重力実験講座」と世田谷区立教育総合センターから依頼された「世田谷ワークショップ(東京学芸大学附属高スーパーサイエンス教室)」は活動することができた。岩附信行先生(東京工業大学 国際広報担当副学長・工学院機械系教授)による「飛び出せ工学くん!」や吉野 彰氏(旭化成名誉フェロー)による「世界の環境問題を解決するためにどんなアイデアを提案しますか?(吉野先生の特別授業)」など例年実施しているものも実施することができた。(研究部) <p>(2B)継続的に実施できた点は良い。新たに、生徒の主体性や専門性を高める場を、考え</p> 	<p>A</p> <p>(2A)A</p> <p>(2A)B</p>	<p>(2A) 「SSH探究基礎」は今年度の指導案をベースとして、より改善していくことが重要である。</p> <p>フィールドワークや外部発表など「発展SSH探究」の活動時間としてカウントの仕方についてルール作成が必要。</p> <p>(2A)1・2年生に発展SSHの探究活動の経過を発表する機会を設ける。(希望者のみ) 発展SSH探究を履修せずに探究をする3年生に対するサポートが必要。</p> <p>(2B)B</p> <p>(2B) 理科・数学・情報・地理の学校設定科目を検討するためのWGを作り、実際に動き始める。探究活動との連携を高めるほか、どのような観点で学校設定科目とするのか、明確にする。(研究部)</p> <p>(2B) 附属中の公開研などに参加し、互いのことを知る(研究部)</p> <p>(2B) 「無重力実験講座」は様々な外部組織と繋がりながら、成果が出ることを祈る。既存の生徒研究発表会で発表し、成果をあげる。生物基礎や地学基礎の授業で宣伝してもらおうなど、1年生に特別授業の存在を周知したい。「世田谷～」は数少ない本校の“地域”の活用場として、今年度以上の発展をさせていきたい。(研究部)</p> <p>(2B)継続的に「志向調査」を実施し、その成果をできるだけ還元する。生徒の資質・能力の変容を評価するような手段をより確立して、活用していく。(研究部)</p>	<p>(2A) 教科教育を簡略化することなく、SSH探究活動を柱に本物教育を充実させている点が高く評価されている。研究部のSULE探究部門だけで探究活動を推進するのではなく、教員研修会を通じて探究活動の議論を活発化させ、学校全体の取り組みに発展させていくことが必要である。</p> <p>(2B) 教科教育の充実が学校運営の骨格をなすものであり、様々な試みは高く評価されているものの、まだまだ具体的な形で示されているものは少なく、検討のレベルに留まっているものが少なくない。その中で「無重力実験講座」は具体的な成果が見え始めており、撮影されている動画のクオリティも極めて高い。SSH探究の中で育ててきた探究の芽をさらに伸ばさせりサポート体制を構築することが必要である。</p>

	<p>ていきたい。特に1年生・2年生を対象とした場を充実させたい。(研究部)</p> <p>(2B)「志向調査」を1年生には4月と1月に、2,3年生は1月に実施した。(研究部)</p> <p>(2B)精力的に先進校視察を行い、本校教員の視野を広げ、本校の教育研究 事業にいかした。(研究部)</p> <p>(2B)「SSH探究基礎」では教員が欠勤した際など、ギリギリの運営をせざるをえない状況が多々あった。また、指導案作成が直前となり、授業を検討する時間が足りなかった。(研究部)</p> <p>(2B)「SSH探究」では今年度はグループ構成を変えたものの、これまでと同じような指導を繰り返している。教員研修を開催し、教員間の意見交換が進んだことは大変良いことである。(研究部)</p> <p>(2B)「発展SSH探究」では教務との連携がスムーズな場面と、課題となる場面が見られた。</p> <p>(2B)「志向調査」を軸にしながら、EBPMのような活動をしたい。(研究部)</p> <p>(2B)教員アンケートを改善して実施したことで、カリキュラム・マネジメントの視点が見えて来た部分がある。情報活用能力・ICT活用能力の育成のためのカリキュラム・マネジメントを大きく進めるには至っていない。</p> <p>(2B)本物教育を深化させたカリキュラムの開発については、各教科とも連携して具体化させる必要がある。また、そのようなカリキュラムを実施したときの生徒の学力保障についても検討する必要がある。(教務部)</p> <p>○(2C) 授業を大切にす進路指導の充実： 「外部模試を実力試験の中心に据え、徹底的に活用する。他校比較、他学年との比較、同一学年の継時変化等を分析し、有効な教科指導と進路指導を探る。1 学年では入学時の学力を客観的に把握し、個に応じた</p>	<p>(2C) スタディーサポートなどの外部試験の結果も踏まえ、学習状況が懸念される生徒の指導に注意した。卒業生(学生)による進路講演会を実施。また、3年次の科目選択の時期を早める方向で検討を進めている。(69)</p> <p>(2C) 外部模試・校内実力テスト(4/25、6/8、9/14</p>	<p>(2C) A</p>	<p>(2B) 新しい学習指導要領に対応した評価には、手間と時間がかかるようになった。効率化することや評価の妥当性についても検証が必要である。(教務部)</p> <p>(2C) 3年次の科目選択の時期を早める方向で検討を進めている。(69)</p> <p>(2C) 推薦会議は、指定校が9/15(金)、公募が9/22(金)とする。GTECは英語科が主催する。</p>	<p>(2C) 進路指導について様々な方策を打ち出している点が高く評価されている。外部模試の分析をさらに進めて、生徒や保護者が求めるデータを速やかに提示することで志望校への意欲づけを高め、学習</p>
--	--	---	---------------	---	--

<p>学習指導を行う。2学年では、1学年からの経時変化を明確にして中弛みを防ぐ。3学年では大学入学共通テストに対応した指導を充実させる。入学から卒業まで、授業を大事にする進路指導を徹底する。(進路指導部+学年)」</p> <p>○(2D) 進路支援力の強化：「教員の進路指導研修を各学期で1回以上行い、生徒への進路支援力を強化する。その結果、外部模試の返却時の生徒への指導を充実させる。(進路指導部+学年)」</p> <p>◎(2E) 医学部・海外進学支援の充実：「年2回の医学部ガイダンスに続き、同窓会と連携し他の職業に関するキャリア教育、外国の大学進学のためのガイダンス等も行う。(進路指導部)」</p> <p>◎(2F) 大学個別試験対策の充実：「大学個別試験対応の講習の開講数を増加するとともに、全教科で生徒ごとの過去問添削指導を充実させる。(進路指導部+教務部+教科)」</p> <p>◎(2G) 自学学習支援の充実：「生徒の自学自習を支援するため、自習室を設け、支援員を置く。(進路指導部+3学年)」</p>	<p>・15、10/6・7、11/15・16・17) (2C) 進路指導室開室、教員がほぼ毎日昼休みに常駐した。 (2C) 受験情報をメール等で全教員へ頻繁に共有するよう努力した。69期は新課程入試に向けて進路だよりを出した。 (2C) 8期2年生 6/24 (金)、9/14 (水) に実施。69期1年生 1/27 (金) 実施予定。卒業した3年生の「受験体験を聞く会」は3/24 (金) に実施。</p> <p>(2D) 実力テスト、スタディーサポート、業者の模擬試験を予定通り実施。学期ごとに分析会実施。学期末の職員会議で模試の分析を職員にも共有した。また英語科と共催しGTEC 3技能テストを3学期始業式に実施した。</p> <p>(2E) 医学部ガイダンス I-7/7 (木) II-12/13 (火) 実施。東京医科歯科大学との高大連携事業で医学科長と本校同窓生が来校し、講演した。海外大学ウェビナーは1/25 (水) 実施。 (2E) 68期生向け「道」(7月上旬配)では海外大学の項目を特に充実させた。 (2E) 海外大学進学の指導強化は個別対応を中心に春の勉強会やウェビナーで情報提供した。</p> <p>(2F) 春の勉強会、夏の勉強会、3年特別講座を実施した。</p> <p>(2G) 自習室を地理教室にて開室した。考査前は18時まで残れるようにした。</p>	<p>(2D) A</p> <p>(2E) A</p> <p>(2F) A</p> <p>(2G) B</p>	<p>(2D) 調査書のミスマッチを完璧に実施し、ノーマスを目指し、ほぼ達成できた。なお、69期の新調査書に対応すべく、69期の担当者が調査研究を進めた。</p> <p>(2E) 海外大学受験については、次年度もさらに内容を充実させ、実施したい。</p> <p>(2G) 自習室支援員を教育支援センターに要請したが、支援対象にはならなかった。卒業生や退職教員などによる支援を検討する。</p>	<p>の継続性の大切さを理解させる契機となるように指導を進めていきたい。また、低学年への進路指導室の認知度を高め、早い時期からキャリア教育への意識づけが図られるような仕組みづくりを進路指導部に検討を依頼する。</p> <p>(2D) 経験が少ない教員でも自信を持って進路指導ができるように教員の進路研修の充実を進めるとともに、調査書の点検も確実に行っていきたい。</p> <p>(2E) 幅広く多くの分野で活動する卒業生を紹介することが同窓会会長から提案されている。様々な分野で活躍する同窓会会員は本校の宝であり、やや低調な在校生に刺激を与える可能性を秘めている。同窓会との連携を高めるべく、進路講演会や講演会で適切な人災の提供を依頼していきたい。</p> <p>(2F) 勉強会の実施について、高く評価されている。講座数の増加とともに内容の充実を進めていきたい。</p> <p>(2G) スクールサポートスタッフ制度の活用を検討し、自習室が毎日19時まで開室できるようなシステムづくりを目指したい。</p>
--	---	---	--	--

	<p>生活指導と安全教育</p> <p>◎(2H) 未然防止のための調査・情報収集の充実：「いじめの匿名通報システム、年2回の記名でのアンケート、スクールカウンセラーによるアンケートとカウンセリング、毎週行ういじめ防止対策委員会、管理職とスクールカウンセラー、養護教員とのミーティング等により、いじめを未然に防ぎ、重大化を阻止する。（いじめ防止対策委員会+生徒指導部+学年）」</p> <p>○(2I) 校外機関・組織との連携強化：「附属中学校等および専門機関等との連携を強化し、メンタルのトラブルや学校不適應に対応する。（支援委員会+生徒指導部+学年+保健部+スクールカウンセラー）」</p>	<p>(2H) いじめ特報通報システムは、STOP IT から STAND BYに名称が変更となり、いじめ防止だけでなく特別支援などにも対応することとした。</p> <p>(2H) 年2回のいじめ早期発見アンケートを実施した。対象生徒は学年担任による聞き取りを行い初期対応及び未然防止に貢献した。</p> <p>(2I) 生徒の安心・安全な学校生活の実現に向けて、附属中学校との連携をはじめ、保健室、カウンセラー等の支援を得て生徒のサポートにつとめた。必要な場合は管理職の指示のもとに外部機関とも積極的に連携を図った。</p> <p>(2I) 進路変更にもなう転学・退学が複数あり、その中には人間関係トラブルが関係するケースもあった。長期欠席が懸念されるケースも複数あり、引き続き慎重な対応が必要である。</p> <p>(2I) 生徒指導については本校のこれまでの経験の蓄積では対応が難しい事案が増えている。外部機関を含むさまざまな連携のあり方を考えていく必要がある。</p> <p>(2I) SC、SSW、校医、大学臨床心理学分野教員(大学との連携体制)と支援チームでケース会を行った。支援の方向性や生徒や保護者への具体的な支援方法を考える時間となった。また、本校教員にとつての OJT の機会にもなった。1年生生徒向けには向井崇先生に「みんな違ってみんないい」をテーマに対面で講演を行った。</p> <p>(2I) 児相、子家センと連絡を取り合い、本校でケース会を開き情報共有をした。</p> <p>(2I) これまで通りの生徒・保護者の面談に加え、1年生(6月)2年生(10月)3年生(9月)に自己肯定感を問うアンケートを実施し、SCによる個人面</p>	<p>(2H) A</p> <p>(2I) A</p>	<p>(2H) 回答フォームを使ったいじめ発見アンケートは形骸化している側面がある。実施方法について検討が必要である。</p> <p>(2I) 困難を抱えたまま進学してくる生徒や保護者に対しては、附属中学校と指導や支援の連携を図る必要がある。</p>	<p>(2H) いじめ防止対策や生徒のこころのケア対策は高く評価されているが、継続性が大切であるという指摘も受けているので、これまでの成果に油断をすることなく、一つ一つの対応を丁寧に進めていきたい。</p> <p>(2I) 本校のこれまでの経験の蓄積では対応が難しい生徒事案が増えていることから、場面場面での対応に追われるだけでなく、根本的な対応策を検討することの必要性を指摘されている。大学で実施されている進路指導主事研修や主幹教諭研修を拡張し、それぞれの学校で起こっている生徒指導案件を自分事として捉えられえる情報共有の場として活用できるように大学に働きかけを継続していく。</p>
--	--	--	-----------------------------	---	---

	<p>○(2J) 附属中学との連携強化：「附属3中学との間で、生徒指導、生徒支援、教育課程等についての担当主任会を、学期に1回以上開催する。（管理職）」</p> <p>○(2K) 適切な情報対応能力を育成する：「警察官や情報産業関係者による講演と教科情報の授業を通じて、生徒の情報対応力を強化する。（生徒指導部+学年+情報科）」</p> <p>○(2L) 避難訓練の実施：「災害等を想定した避難訓練を年3回以上行う」（総務部）</p> <p>○(2M) 不審者対応訓練の実施：「不審者対応を想定した教員対象の現地訓練を地域の警察の協力で行う。（総務部）」</p> <p>○(2N) 図書館の充実：「図書館においては、生徒の意見を聞き、広報活動を強化することで貸し出し数を1.2倍にする」</p>	<p>談と担任との情報交換を行った。また、必要に応じてケース会を設けて生徒・保護者への対応を探った。</p> <p>(2J) 対応が必要な生徒に関して、附属中学校からも情報をもらう機会を設けた。</p> <p>(2J) メンタル面だけではなく、学習面を中心とした支援が必要と考えられる生徒が増えている。</p> <p>(2K) 生徒の安心・安全な学校生活の実現に向けて、附属中学校との連携をはじめ、保健室、カウンセラー等の支援を得て生徒のサポートにつとめた。必要な場合は管理職の指示のもとに外部機関とも積極的に連携を図った。</p> <p>(2K) SNSについては、生徒指導部担当の講演会をはじめとして適切な使用の指導に努めた。</p> <p>(2K) SNSがからむものを含む生徒間のトラブルについては、生徒の生活状況や意識がこれまでの本校とは変わってきている可能性を頭に置いて、対策を考えていく必要がある。</p> <p>(2L) コロナ禍のため実施していなかった全校避難訓練を4月28日(木)、12月1日(木)に実施。学校安全マニュアル記載の教員の防災担当係についても確認することができた。</p> <p>(2M) 非常(不審者)対応訓練は1月20日(金)LHRに生徒在室の元、世田谷警察署からの指導を受けて実施。</p> <p>(2N) 長期休業中の貸し出しを無制限として、図書利用の促進を図った。生徒の図書購入希望については、問題のない限り、原則として受け入れて、図書の購入を行なった。また、探究活動におけるレファレンス活動の充実を図り、他の図書館からの図書の借用や、論文の取り寄せなどを行なった</p>	<p>(2J)C</p> <p>(2K)A</p> <p>(2L)C</p> <p>(2M)A</p> <p>(2N)B</p>	<p>(2N) 電子図書館の利用促進を図る</p>	<p>(2K) これまでの指導と併せて、ネットパトロールを年に4回外部組織に依頼をすることで、SNSによるトラブルを少なくする指導に繋げていきたい。</p>
--	---	--	--	---------------------------	--

		(2N) 教科行事、学習旅行の参考図書として、電子書籍が存在するものについては、電子図書館に電子書籍を追加した。			
(3) 研究活動	<p>◎(3A) 大学の教育研究の支援と連携：「3つの大学の教育開発プロジェクトと連携し、大学の教育研究を支援するとともに、本校の教育研究を活性化する。(研究部)」</p> <p>○(3B) 工学的理科授業の研究：「理数融合の授業と工学的発想での理科授業を研究する。(理科+数学科+研究部)」</p> <p>○(3C) 海外交流による能力開発：「海外の学校等との交流により、生徒に、コミュニケーション能力とダイバーシティを活用する能力とを育てる。当面はオンラインで行う。(理科+帰国生留学生委員会+研究部)」</p> <p>○(3D) 研究成果の還元と評価：「本校での発表会参加者等に事後調査をして、本校の研究成果の活用状況を分析する)」</p> <p>○(3E) 探究活動の人材支援：「東京学芸大学等との連携で、生徒の探究活動へのメンターを確保し、研究を充実させる。(管理職+研究部)」</p> <p>◎(3F) ICT活用した教育研究と広報：「ICTを活用した教科指導の工夫を行い、広く全国に広める。(研究部+全教科+広報)」</p>	<p>(3A) 研究題目を「観点別学習状況の評価を活かしたカリキュラム・マネジメント～いま問われる学習評価と学校の在り方～」とした。3月に、次年度の研究題目及びカリキュラム・マネジメントに関する説明を行なった。</p> <p>(3B) 学校設定科目の検討などが進まなかった。学校設定科目について議論を進めたい。</p> <p>(3C) タイ王国・PCSHSCRとの渡航はできてはいるものの、共同研究を実施した。12月には「Thailand- Japan Student ICT Fair 2022」に参加した。直接の渡航が難しい中で、できる限りの活動ができた。直接の渡航が難しい中で、できる限りの活動ができた。(研究)</p> <p>(3D) 事後調査・追跡調査は行われなかった。</p> <p>(3E) 東京学芸大学の学生からの支援を検討したが、具体的な実施計画には至らなかった。</p> <p>(3F) オンライン形式(一部、対面形式)での開催に向けて、前回と同様にZoomの環境を整備し、次世代教育推進機構「21CoDOMoS」と連携した。「観点別学習状況の評価」を主なテーマとし、公開授業を9つ、研究協議会を8つ行なった。参加の申し込み者数は、473。全体の講演会は東京大学名誉教授、帝京</p>	<p>B</p> <p>(3A)A</p> <p>(3B)C</p> <p>(3C)A</p> <p>(3D)C</p> <p>(3E)C</p> <p>(3F)A</p>	<p>(3A) 学校として教育研究をいかに進めていくのか、依然として課題が残る。「国立の附属学校の使命・役割」「本校の教育方針」を念頭に、これまで積み上げてきた本校の研究成果を活かしながら、今日的な教育課題を解決していきたい。公開研究大会は次回以降も、対面とオンラインを併用した形式での開催がありうる。公開研究大会の目的を考慮し、安全面に配慮した上で、形式を決めたい。</p> <p>(3C)・タイへの渡航が計画されているので、それに向けて準備を進めたい。共同研究は継続的に実施する。</p> <p>(3E) 東京学芸大学の教育経験の単位制の事業などを利用して学生からの支援を計画して実施する。</p>	<p>(3ABC) 様々な活動においてコロナの影響を受ける事態となったが、教員の努力によって有意義な活動が行われて効果を上げていると評価されている。コロナ感染症が5類に移行されていく中で、研究活動を正常化させて外部の方々をどのようにお招きするかを考える時期に来ている。タイ国でのSSH交流事業や学習旅行の再開に向け、感染症対策を施しつつも生徒が様々な貴重な体験をタイ国で得られるように十分な検討を進めて実施に向け万全の体制を構築したい。</p> <p>(3D) 多くの授業参観者や見学者、公開研への参加者が見込まれる来年度こそ、事後調査や追跡調査を実施して、その成果を公表する方策を検討する時期に来ている。</p>

	<p>◎(3G) 地域との連携や還元：「地元東京都教育委員会との連携を深め、学校組織マネジメント、探究活動、1 to 1、教科情報等において、高校教員対象の研修講師派遣や、本校での研修会を開催する。（管理職+研究部）」</p>	<p>大学中学校・高等学校校長補佐, 中央教育審議会教育課程部会副部長, 児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ主査である市川伸一先生をお招きし、「新教育課程における観点別学習状況の評価～資質・能力の向上にどう活かすか～」というテーマでお話しいただいた。</p> <p>(3F) 全国国立大学附属学校連盟 高等学校部会 高等学校教育研究大会を主管校として (10/14-15) にオンラインで開催した。</p> <p>(3F) 本校研究紀要の刊行、第60号を3月に刊行し、DMを発送。冊子で30部印刷し、本学リポジトリにも掲載。</p> <p>(3G) 現職教員研修として7講座を設定して実施した</p> <p>6/15第9回授業実践研究会「探究活動」【1 to 1・教育工学】（オンラインで実施）90名参加</p> <p>7/8. 11. 12 夏季特別実験講座物理 体験講習会 附属高校・物理実験室等 6名</p> <p>7/8. 11. 12 夏季特別実験講座化学 体験講習会 附属高校・化学実験室等 1名参加</p> <p>7/8. 11. 12 夏季特別実験講座生物 体験講習会 附属高校・生物実験室等 4名参加</p> <p>11/1-2地学科公開研究会 野外観察講座@城ヶ島 (神奈川県)</p> <p>3/15スーパーサイエンスハイスクール事業報告会 (オンラインで実施) 24名</p> <p>3/29深い学びと学習評価の改善を意識した単元計画 (数学科) をオンライン開催</p> <p>(G) 第9回授業実践研究会「『1to1・教育工学』 学校での課題を改善させる1to1～1to1実施2年目の総括とこれから～」</p> <p>令和4年6月15日 (水) (オンラインで実施)</p> <p>(G) 第21回公開教育研究大会「観点別学習状況の評価を活かしたカリキュラム・マネジメント～いま問われる学習評価と学校の在り方～」</p> <p>令和4年11月5日 (土) (オンラインで実施)</p>	<p>(3G) A</p>	<p>(3G) 現職教員研修をコロナ前の実施状況に戻し、現職教員の資質向上に寄与する実績を上げるとともに、その成果を外部に積極的に公表していきたい。</p>
--	---	---	---------------	--

		<p>本校の実践を動画にまとめ、本学の現職研のホームページで公開を予定している。</p> <p>(G) 学校視察等受入が、外務省、国立教育政策研究所、高校から計6件あった。</p>			
(4) 学生の教育・支援活動	<p>◎(4A) 教育実習の実施：「東京学芸大学および他大学の教育実習生約200名に充実した教育実習を施す。(教務部+各教科)」</p> <p>○(4B) 講師の派遣：「校長をはじめ本校教員が東京学芸大学に赴き講義を行う。(全教員)」</p>	<p>(4A) 東京学芸大学をはじめとした教育実習を滞りなく実施できた。コロナ禍ということもあり、出勤・退勤時刻に柔軟性を持たせた実施となったが、順調に実施できた。今年度から実施したデジタル教育実習日記には、アクセスに時間がかかるなど課題があった。</p> <p>(4B) 教育実習の事前指導など本校教員が大学にて講義を行った。</p>	<p>A</p> <p>(4A)A</p> <p>(4B)A</p>	<p>(4A) デジタル教育実習日記については、使い勝手などについて大学に要望を出して、より使いやすいものとしていくことが必要である。また、東京学芸大学の教育実習、特にA類の副免として、中学校・高等学校の教員免許の取得を希望する学生の指導については、学生・大学の望む教育実習と本校教員が必要と考える教育実習との間に乖離があることがあるので、調整が必要である。(教務)</p> <p>(4A) 本校の要求水準について、勤務時間や実習生の準備時間等も含めて見直すことも必要であろう。(教務)</p>	<p>(4A) 学生の教育上の大学との考え方の乖離について、教職の本来の在り方に立ち戻って本校の考えに自信を持って臨んで欲しいと激励の言葉を頂戴した。学生への誠実かつ丁寧な指導を心がけ、実習を終えた学生が教職への志望を高められるように努力を継続したい。</p>
(5) 社会貢献活動	<p>○(5A) 地域社会への貢献：「地域の防災活動に生徒の代表等が参加して、交流するとともに地域を愛する心を育てる。(生徒指導部)」</p> <p>○(5B) インクルーシブ教育の実践：「特別支援学校等との交流によりインクルーシブ教育を実践する。(生徒指導部)」</p> <p>○(5C) ボランティア：「生徒有志が東日本大震災の被災地域を訪ね、自分たちでできるボランティア活動について考える。(研究部+教科)」</p>	<p>(5A) ・継続的に世田谷区立教育総合センターから依頼された「世田谷ワークショップ(東京学芸大学附属高スーパーサイエンス教室)」は活動することができた。(研究部)</p> <p>(5B) 筑波大学附属特別支援学校との交流を実施した。事前事後指導を</p> <p>(5A) (5C) 11/12月に校地周辺の落ち葉清掃をおこなった。地域住民への実施予定の告知を行うようにした。生徒・シルバー人材派遣・用務員で全ての曜日で実施できる体制とした。</p>	<p>B</p> <p>(5A)C</p> <p>(5B)A</p> <p>(5C)C</p>		<p>(5ABC) コロナにより実施できなかった活動もあったが、今後はそれらを復活させるとともに、様々な企画の実施を期待する意見を頂戴した。これまでに実施してきた行事を継続するとともに、周辺地域との連携を生徒だけでなく、教員も深めていけるように努力を継続していきたい。</p>

3 その他特記事項

4 自己評価委員会委員、開催日

校長：大野弘 副校長：後藤貴裕 主幹教諭：大谷晋 主幹教諭：平野正彦 主幹教諭：安井崇
 令和5年3月17日(金) 14:00- 於 本校副校長室

学校関係者評価委員会 令和5年 3月20日(月) 15:00 ~ 17:00

学校関係者評価委員：小玉剛, 武田佐知子, 町井研士, 柴山喬一, 梅澤幹司, 山里哲史 (PTA会長)

校長：大野弘 副校長：後藤貴裕 主幹教諭：大谷晋 主幹教諭：平野正彦 主幹教諭：安井崇

(評価基準)

第5条 自己評価は、前条第1号に定める領域ごとに、次に掲げる評価基準に基づき、A、B、C、D、Eの5段階で行う。

評語	評価	達成度
A	重点目標が十分達成されており、極めて優れた成果を上げている。	100～90%
B	重点目標が十分達成されている。	89～80%
C	重点目標が概ね達成されている。	79～70%
D	重点目標が最低限達成されている。	69～60%
E	重点目標が達成されていない。	59%以下

